

国際農業研究協議グループ（CGIAR）の概要

平成 23 年 7 月
外務省地球規模課題総括課

1. 名称

国際農業研究協議グループ

(Consultative Group on International Agricultural Research: CGIAR)

2. 設立経緯及び目的

(1) 設立経緯

1971 年 5 月、ワシントンにおいて世界銀行（世銀）、国連食糧農業機関（FAO）及び国連開発計画（UNDP）を発起機関とし、我が国を含む先進 16 か国、地域開発銀行、途上国農業研究支援に実績を有する民間財団等の参加の下、CGIAR の設立が決定された。

2009 年 12 月、ワシントンにおいて関係機関、各国の参加の下、CGIAR の組織・運営を大きく改革し、新 CGIAR を設立することが決定された。

(2) 目的

国際農林水産研究に対する長期的かつ組織的支援を通じて、開発途上国における食糧増産、農林水産業の持続可能な生産性改善により住民の福祉向上を図ること。

3. 組織

(1) 拠出国・機関

日、米、英、加、仏、独、豪、伊等 47 か国の他、世銀、UNDP、FAO、アジア開発銀行（ADB）、国際農業開発基金（IFAD）等 13 の国際・地域機関及びロックフェラー財団等 4 財団。新 CGIAR にはゲイツ財団も参加することになった。

(2) 研究センター

CGIAR の下で国際農林水産研究を実施する 15 の研究センターがあり、それぞれ独立した機関として活動している。所長（Director General）以下国際採用職員、現地採用職員により構成されている。

総職員数：8,082 名（うち国際採用職員 1,096 名）

日本人職員／研究者：33 名

(3) 新 CGIAR の仕組み

新 CGIAR は、研究の実施側（Doers）と資金の拠出側（Funders）に分かれてそれぞれ説明責任を負う仕組みとなっている。

(イ) 研究実施側（Doers）

新たに意思決定機関としてコンソーシアム（Consortium）を設置。コンソーシアム理事会で意思決定を行う。各研究センターはコンソーシアムと研究実施契約を結ぶ。

コンソーシアム事務局を設置予定（場所はモンペリエ（仏））。

(ロ) 資金拠出側（Funders）

意思決定機関としては各機関・国の代表からなるファンド・カウンシル（FC）が設

置され、代表以外の機関・国もファンダーズ・フォーラムに参加して意見を述べる
ことができる。拠出する各機関・国は、新しく設置される CGIAR トラストファンドへ拠
出し、そこから決定された研究プログラムへ資金が配分される（ただし、従来通り各
研究センターへ直接拠出することも可能）。

事務局（ファンド事務局）は従来の CGIAR 事務局をとりあえず引き継いでおり、世
銀本部（ワシントン）内にある。議長を補佐しつつ FC 及びファンダーズ・フォーラム
の運営等を行う。

（4）主な意思決定機関

（イ）ファンダーズ・フォーラム（Funders Forum）

2年に1回開催。CGIARに拠出する全メンバーが参加し、主にコンソーシアムから提
出される CGIAR 全体として目指す研究戦略及び結果の枠組み（Strategy and Results
Framework:SRF）について討議し、承認する。

ファンダーズ・フォーラム議長：

先進国と途上国から1名ずつ選出（共同議長）。

ただし、SRFを承認する6年に一度の会合では、FC議長とドナー国から
1名（先進国と途上国交互に選出）の共同議長。

（ロ）ファンド・カウンスル（FC：Fund Council）

原則年2回開催。SRFの下で各研究センターが実施する研究の大きなプログラム
（CGIAR Research Programs:CRPs）の承認を含め、主要課題について意思決定を行う。
メンバーはCGIARに拠出する国・機関から地域毎に選ばれる（我が国は2010年から最
初の任期のメンバーとなっている）。

FC議長：Ms. Inger Andersen

（世銀副総裁（持続可能な開発担当）、デンマーク出身、2010年7月～）

ファンド事務局長（Fund Council Executive Secretary）：Jonathan Wadsworth
（英国出身、2011年1月～）

（ハ）コンソーシアム理事会（Consortium Board）

理事長及び理事（9名？）は公募により選出。コンソーシアム理事会の主な役割は、
SRFとMPsを承認し、SRFはファンダーズ・フォーラムへ、CRPsはファンド・カウ
ンシルへ提出する。

コンソーシアム理事長：Carlos Perez del Castillo

（ウルグアイ出身、2009年12月～）

（ニ）各センターの理事会（Board of Trustees, Board of Governors）

15の研究センターがそれぞれ10～15名程度の理事（個人資格）で構成する理事
会を設け、センターの予算等重要事項に関する各種決定を行っている。

4. 資金規模（2010年度）

収入 696百万ドル（うち拠出金 673百万ドル）

支出 657百万ドル

（地域別比率：サハラ以南アフリカ 50%、アジア 29%、中南米 13%、西アジア・
北アフリカ 8%）

5. 我が国及び主要国・機関の拠出状況

(1) 我が国の拠出金予算

(単位：千円、%)

平成 18 年度	19	20	21	22	23
1,379,500 (25.4)	748,000 (▲15.0)	1,267,960 (69.5)	691,969 (▲4.6)	442,054 (▲36.1)	355,760 (▲24.2)
当初 880,000 (▲20.0)		当初 725,560 (▲3.0)			
補正 499,500		補正 542,400			

注1：() は対前年度比。ただし 19 年度及び 21 年度は 18 年度及び 20 年度当初比。

注2：外務省計上分のみ（農林水産省も別途拠出）。

(2) 上位 5 か国・機関の拠出状況

(単位：百万ドル、%)

2008 年度				2009 年度				2010 年度			
1	米国	58.0	(11.0)	1	米国	78.9	(13.0)	1	米国	86.3	(12.8)
2	世銀	50.0	(9.5)	2	ドイツ	61.0	(10.1)	2	ドイツ	71.4	(10.6)
3	英国	45.4	(8.6)	3	世銀	50.0	(8.3)	3	世銀	50.0	(7.4)
4	カタ	32.7	(6.2)	4	カタ	42.4	(7.0)	4	英国	49.1	(7.3)
5	EC	32.6	(6.2)	5	英国	41.6	(6.9)	5	EC	42.7	(6.3)
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
11	日本	12.3	(2.3)	9	日本	16.1	(2.7)	11	日本	16.3	(2.4)

注：() は構成比。

[参考] これまでの CGIAR の成果例と日本の貢献

- (1) 60 年代のアジアにおける「緑の革命」において、コメと小麦の生産が飛躍的に増大したが、IRRI と CIMMYT による品種開発がその契機となった。その稲と小麦の品種開発には日本人の技術が大きく貢献している。
- (2) その後も品種開発の技術は進展し、例えばコメの世界全体の生産量はこの 50 年間で約 3 倍となっている。この成果に日本からの資金援助は大きく貢献している。
- (3) 90 年代、アフリカ稲センター（旧 WARDA）において NERICA 稲というアジア種の稲とアフリカ種の稲を掛け合わせた新しい稲が開発された。アフリカ種の持つ環境耐性とアジア種の収量の高さを併せ持つ品種として注目を浴び、アフリカの稲作振興へと繋がっている。日本も当初より資金面、また人的にも大きく貢献してきている。

6. 研究センターの概要

名称	主な研究対象	本部所在地	所長（出身国）
国際生物多様性センター (Bioversity International)	動植物の遺伝資源	イタリア (ローマ)	Emile A. Frison (ベルギー)
国際熱帯農業研究センター (CIAT)	豆類、キャッサバ、稲、 熱帯放牧	コロンビア (カリ)	Ruben G. Echeverria (ウルグアイ)
国際林業研究センター (CIFOR)	持続的森林管理	インドネシア (ボゴール)	Frances Seymour (米国)
国際トウモロコシ・小麦改良センター (CIMMYT)	トウモロコシ・小麦	メキシコ (エルバタン)	Thomas A. Lumpkin (米国)
国際馬鈴薯センター (CIP)	芋類	ペルー (リマ)	Pamela K. Anderson (米国)
国際乾燥地農業研究センター (ICARDA)	大麦、ヒヨコマメ、ヒラマ メ、牧草、家畜	シリア (アレクソ)	Mahamoud M. B. El-Solh (レバノン)
世界アグロフォレストリーセンター (ICRAF, World Agroforestry Centre)	多目的樹木改良	ケニア (ナイロビ)	Dennis P. Garrity (ケニア)
国際半乾燥熱帯作物研究所 (ICRISAT)	トウモロコシ、ヒヨコマメ、落 花生	インド (パタンチェル)	William D. Dar (フィリピン)
国際食糧政策研究所 (IFPRI)	食糧政策、農業開 発関連社会経済	米国 (ワシントン)	Joachim von Braun (ドイツ)
国際熱帯農業研究所 (IITA)	大豆、トウモロコシ、キャ ッサバ、ヤムイモ	ナイジェリア (イバタン)	Peter Hartmann (米国)
国際畜産研究所 (ILRI)	家畜疾病、牧草	ケニア (ナイロビ)	Carlos Seré (ウルグアイ)
国際稲研究所 (IRRI)	稲	フィリピン (ロスバニョス)	Robert S. Zeigler (米国)
国際水管理研究所 (IWMI)	かんがい、水資源 管理	スリランカ (コロンボ)	Colin Chartres (豪州)
アフリカ稲センター (Africa Rice Center)	稲	ベナン (コトヌ)	Papa Abdoulaye Seck (セネガル)
世界魚類センター (WorldFish Center)	持続的水生生物管 理、内水養殖	マレーシア (パナ)	Stephen J. Hall (豪州)

CIAT: Centro Internacional de Agricultura Tropical

CIFOR: Center for International Forestry Research

CIMMYT: Centro Internacional de Mejoramiento de Maiz y Trigo

CIP: Centro Internacional de la Papa

ICARDA: International Center for Agricultural Research in the Dry Area

ICRISAT: International Crops Research Institute for the Semi-Arid Tropics

IFPRI: International Food Policy Research Institute

IITA: International Institute of Tropical Agriculture

ILRI: International Livestock Research Institute

IRRI: International Rice Research Institute

IWMI: International Water Management Institute